

月経周期不順妊娠に関する疫学調査

集計代表機関

山形大学医学部産科婦人科学教室

集計責任者

広井正彦

調査目的

月経不順の婦人が妊娠した場合には、卵巣の発育不全による妊娠前および妊娠時の内分泌環境の変化や、卵胞期の延長に伴う変性卵の排卵、黄体期不全に伴う着床期の内分泌異常などより、児に何らかの発育障害をもたらすものと考えられる。この因果関係を臨床的に検討する。

調査方法

当研究班にて作成した月経不順例の妊娠、分娩、児の所見などのアンケート用紙を配布し、回答をえた9機関681例につき分析を行なった。

調査成績

- (1) 各機関別の報告と死産および奇形発生率は表1のごとくである。死産を含めた児の死亡例は22例、3.23%、児の奇形16例、2.35%みられた。男女の性別については判明しているものでは男349対女318と、とくに男女の比に大きな差異はなかった。
- (2) 児の奇形例は16例ありその内容は表2のごとくである。年齢は20才より37才に及び、奇形の種類も四肢の末梢より心奇形、無脳児とほぼ全身に及んでいる。
- (3) 母親の年齢と児の奇形との相関について、表3のごとく25～29才では357例中11例(3.08%)と最も多く、ついで20～24才は140例中3例(2.14%)、35～39才で54例中1例(1.85%)、30～34才で121例中1例(0.83%)の順で必ずしも年齢との相関はみられなかった。
- (4) 母親の最長月経周期の日数と児の奇形との関

係については、36～39日が45例中4例(8.89%)と最も多く、ついで50～54日が44例中2例(4.55%)、80日以上が52例中2例(3.85%)などの順で、とくに最長月経周期の日数と児の奇形発生率との間には相関はみられなかった。

- (5) 最長月経周期日数と最短月経周期日数との差異と児の奇形との関係をみると、表4のごとく、60日以上が8例中1例(12.5%)、6～10日で71例中3例(4.23%)、26～30日で61例中2例(3.28%)の順で多かったが、最長・最短月経周期との日数との間には相関はみられなかった。
- (6) 出産時の在胎週数をみると40週が最も多く、ついで39、41、42、38週で大部分が38～42週を占め、必ずしも早産または晩期産が多いことはなかった。
- (7) 児の生下時体重をみると3001～3500gが46%を占めて最も多く、ついで2501～3000gが30%を占めていた。2500g以下は7.3%、4000g以上は1.9%と、必ずしも低体重児が多いという傾向はなかった。
- (8) 分娩所要時間をみると、5時間以内が34%と最も多く、6～10時間が31%、20時間以上遷延した例では15%を占めていたが、必ずしも分娩時間が遷延する傾向はみられなかった。
- (9) 新生児の所見のうち、生下時のApgar scoreをみると、大部分が8点以上を示し、4点以下は2.4%で、児の予後は必ずしも悪くなかった。

考案および結語

以上のごとく月経不順例でも必ずしも児の予後がわるいことでもなく、母体の妊娠分娩に際して

悪影響を与えるものではないことが判明した。しかし、このような調査報告もなく、今後例数を増やして検討する必要がある。

表 1. 月経周期不順の児に及ぼす影響

病 院 名	症例数	児の死亡例数 (死産を含む) (発生率%)	児の奇形例数 (発生率%)	児 の 性 別		
				男	女	記載なし
北海道大学	133	6(4.5)	8(6.0)	71	61	1
東北大学	36	0(0)	0(0)	12	24	
山形大学	63	2(3.2)	1(1.6)	37	24	2
東京大学	22	1(4.6)	0(0)	15	5	2
慶応大学	112	1(0.1)	0(0)	63	45	4
金沢大学	158	5(3.2)	4(2.6)	75	78	5
京都大学	32	4(12.5)	1(3.1)	19	13	
京都府立大学	8	0(0)	0(0)	5	3	
広島大学	117	3(2.6)	2(1.8)	52	65	
合 計	681	22(3.23)	16(2.35)	349	318	14

表 2. 月経不順例より分娩した児の奇形例の分析

No	奇形の種類	母親の 年 令	最 長 の 月経周期日数	性別	妊娠中の 経 過	Apgar score	在胎 期間 (週数)
1	合 指 症	20		♂, ♀	双 胎		
2	心 臓 奇 形	22		♂	-		43
3	心 臓 奇 形	24	60日	♀	-		39
4	Down 症 候 群	25	60日	♀	-		
5	多 指 症	27		♂	中毒症	10	40
6	左 内 反 足	29	180日	♂	-		40
7	左 多 指 症	29		♀	切 迫 流 産		39
8	右下肢の第5指の位置異常	37	50日	♂	-		40
9	無 脳 児	27	36日	♂	乳腺症	0	34
10	無 脳 児	25	50日	♂	-	0	38
11	停 留 嚢 丸	29	37日	♂	切 流 中 毒 症	9	39
12	無 脳 児	29	37日	♂	-	0	33
13	Garthey cyst	31	40日	♀	-	10	42
14	左 母 指 多 指 症	27	90日	♂	切 迫 流 産	8	42
15	胸 腺 肥 大	23	37日	♂	切 流 中 毒 症	6	37
16	涙 管 閉 鎖	29	40日	♀	-	8	40

表 3 月経不順例の母親と児の奇形との関係

年 令	調査例数	頻度(%)	奇形例数	奇形の出現率(%)
19才以下	2	0.29	0	0
20~24	140	20.56	3	2.14
25~29	357	52.42	11	3.08
30~34	121	17.77	1	0.83
35~39	54	7.93	1	1.85
40才以上	7	0.10	0	0
合 計	681	100	16	2.35

表 4. 月経不順例の月経の最長周期と最短周期との差異と児の奇形との相関

最長月経周期と最短周期の差	調査例数	頻度(%)	奇形例数	奇形の出現率(%)
～ 5 (日)	4 4	6.46	1	2.27
6 ～ 10	7 1	10.43	3	4.23
11 ～ 15	3 5	5.14	1	2.85
16 ～ 20	3 0	4.41	0	0
21 ～ 25	1 5	2.20	0	0
26 ～ 30	6 1	8.96	2	3.28
31 ～ 40	8	1.17	0	0
41 ～ 50	7	1.03	0	0
51 ～ 60	1 4	2.06	0	0
61 ～	8	1.17	1	1.250
不 明	3 8 8	56.98	8	2.06
合 計	6 8 1	100.00	1 6	2.35

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

調査目的

月経不順の婦人が妊娠した場合には、卵巣の発育不全による妊娠前および妊娠時の内分泌環境の変化や、卵胞期の延長に伴う変性卵の排卵、黄体期不全に伴う着床期の内分泌異常などより、児に何らかの発育障害をもたらすものと考えられる。この因果関係を臨床的に検討する。